

経営学研究科 担当教員

経営学	マーケティング系	会計学系	経営科学系
 教授：中村 公一	 教授：兼村 栄哲	 教授：高木 克己	 教授：高井 徹雄
 教授：鹿嶋 秀晃	 教授：青木 茂樹	 教授：猿山 義広	 教授：西村 和夫
 教授：小本 恵照	 教授：菅野 佐織	 教授：片桐 伸夫	 教授：小沢 利久
 教授：渡辺 伊津子	 教授：中野 香織	 教授：桑原 正行	 教授：長 國雄
 教授：藤原 篤志	 教授：若山 大樹	 教授：岸田 隆行	 教授：飯田 哲夫
 教授：日野 健太	 教授：小野瀬 拓	 准教授：河合 由佳理	 教授：阿部 一人
 教授：中川 淳平	経済学系		 教授：明石 博行
 教授：豊田 太郎	 教授：滝田 公一		



駒澤大学大学院 経営学研究科 経営学専攻

130年余の伝統ある駒澤大学にあって、経営学研究科は1973年創設。以来45年、築いた基礎の上に成果を積み上げ、さらなる発展を続けます。

恵まれた環境で徹底した個人指導を実践しています。

研究科院生室
がある
深沢キャンパスは
我が国の伝統と
先進的学術研究
を求めて



深沢校舎



120周年アカデミーホール

国内外から
学究の徒が集う

グローバルで
学際的な空間

“マネジメント”は現代人に必須の素養。深く学んで高い見識を獲得しよう！

経営学研究科委員長
理学博士 高井 徹雄



本大学院経営学研究科は、1969年創設の経営学部の上に、'73年に修士課程、'77年には博士後期課程を設立。以来、今日に至るまで、社会科学のなかでも、最も期待される研究分野「経営学」において、

- (1) 学術的研究の推進とともに、国際的貢献の成果を挙げる
- (2) 高度な学術研究に従事する研究者(大学・研究機関)の育成
- (3) 高度な専門的知識能力を有する職業人(会計士・税理士等)の養成
- (4) 国際的貢献の一環として、海外留学生や社会人受け入れの推進を主要な目標に掲げて研究教育の成果を積み上げて来ました。

本研究科入学生は、経営学の各専門分野に精通した教授陣による徹底した少人数授業を通じて、高度な研究指導を受けることができます。大学学部で得た基礎的素養のうえに、大学院で高い水準の学生生活を送った経験は、必ず貴方の将来に大きな実を結ぶことと信じています。

教育の概要と特色

経営学研究科修士課程の開講科目は、<経営学、会計学、経済学、経営科学>の4つの分野から構成されており、学生の興味や関心に幅広く対応できるようにしています。

授業はいずれも少人数教育で行われ、各自の研究テーマに合わせてきめ細かい指導を行っています。また、外国語の学力向上のために、専任教員による英語、ドイツ語、フランス語、中国語の外国文献研究の科目を設けています。

博士後期課程では、上記4分野のいずれかにおける博士論文の作成に向けた、研究指導科目を開講しています。

受験生に求められる能力

本研究科では、大学院入学試験で選択した専門科目(経営学、会計学、経済学、経営科学の何れか一科目)が入学後の専修科目となります。各専門科目では、受験生に対して次のことを求めていますので、受験準備の参考としてください。

- ① 経営学：マーケティングを含む経営学各分野に関する基礎的知識を持ち、企業や産業について経営学的視点から分析できること。
- ② 会計学：会計基準および株式会社会計に関する基礎的知識を持っていること。
- ③ 経営科学：経営管理技術に関わる基本的な事項を理解していること。
- ④ 経済学：マクロ経済学とミクロ経済学の基礎的知識を持っていること。

履修モデルの概要

例えば、修士課程では次のような履修が可能です。

例1) 修士課程(経営学専修)

経営組織論特講 a・b	各2単位
経営管理論特講 a・b	各2単位
経営戦略論特講 a・b	各2単位
財務管理論特講 a・b	各2単位
ベンチャー企業論特講 a・b	各2単位
外国文献研究I(英米) a・b	各2単位
指導教員による1・2年次演習	各4単位必修

例2) 修士課程(会計学専修)

管理会計論特講 a・b	各2単位
原価計算論特講 a・b	各2単位
財務会計論特講 a・b	各2単位
国際会計論特講 a・b	各2単位
経営分析論特講 a・b	各2単位
外国文献研究I(独) a・b	各2単位
指導教員による1・2年次演習	各4単位必修

例3) 修士課程(経営科学専修)

経営科学特講 a・b	各2単位
経営数学特講 a・b	各2単位
経営システム論特講 a・b	各2単位
情報科学特講 a・b	各2単位
統計学特講 a・b	各2単位
外国文献研究I(中国) a・b	各2単位
指導教員による1・2年次演習	各4単位必修

修士課程修了には、2年間在籍し、指導教員の演習8単位(必修)を含む、合計30単位以上の修得と修士論文(60,000字以上)の提出が必要です。

本研究科入学生は、ご自身の興味や問題意識に従って、独自の研究テーマを選ぶことができます。本研究科では、経営学研究の範囲であれば、殆どあらゆるテーマに関して、十分な研究指導ができるだけの教授陣を擁しています。

ただし、経営学は“実学”です。いずれのテーマを選ぶにしても、“理論と実践の融合”が要求されることだけは、ご承知おきください。

修士論文テーマの例示

最近5年間の範囲で、本研究科で作成・発表された修士論文テーマの一部を紹介します。

経営学・マーケティング系

- ・雇用形態の多様性とパーソナリティの成長
—アジャイル理論を手掛かりとして—
- ・CVSシステムの分析および海外進出戦略に関する考察—セブンイレブンの中国進出を中心に—
- ・東アジアにおけるEMS企業の現状と展望
—ホンハイの発展を中心に—
- ・新卒一括採用とインターンシップ
—日本国内におけるインターンシップの本質—

経営科学・マーケティング系

- ・サプライチェーンにおけるブルウィップ効果の抑制に関する研究
- ・制約条件の理念に基づくサプライチェーンマネジメントに関する研究

会計学系

- ・企業会計における利益概念の再検討
—IFRS時代の利益概念—
- ・地方自治体における公会計改革
—財務書類4表による分析—
- ・IFRSによるのれんの会計処理
—日本企業の対応を中心に—
- ・ERPの歴史と発展—管理会計の視点から—
- ・資産負債観と収益費用観に関する利益概念について
—1976年討議資料を中心とした利益観の考察—

在籍者とOB紹介

平成27年度修士修了 成川雄太さん

私は、大学時代に租税法に関して問題意識を持つようになり、租税法を深く知りたいと思い経営学研究科修士課程に進学しました。同研究科では、経営学の他



会計学、経済学経営科学、マーケティングと様々な分野の履修が可能で、自分が学びたい講義を受けることができます。

少人数で講義を受けるため、講義以外のお話も聞くことができます。また、研究室は深澤キャンパスにあり、とても綺麗で、研究しやすい環境となっています。修士課程の2年間は、とても充実したものになり、税理士資格を取得することができました。

現勤務先：都内の税理会計事務所

平成26年度修士修了 関 聡彬(エン カンヒン)さん

私が大学生の頃、中国ではECの急成長期にあり、インターネット通販が画的に発展していました。私は、人・物・金・情報の流れに興味をもち、駒大経営学研究科に進学しました。同研究科では、経営学各



分野の少人数講義を履修し、青木茂樹指導教授のもとで、マーケティングおよび流通システムについて、さらに深く学ぶことができました。

修士論文では、「CVSシステムの分析及び海外進出戦略に関する考察」と題するテーマで、セブンイレブンの中国市場進出に関する実態分析に基づいて、CSVの海外戦略について考究しました。

現勤務先：YKK AP 株式会社